

朝鮮民主主義人民共和国の水爆実験に抗議する

1月6日、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）は2006年、2009年、2013年に続き、4回目となる核実験を行った。

私たちJR総連は、いかなる理由があろうとも核実験を容認することはできない。ここに強く抗議するものである。

北朝鮮は朝鮮中央テレビを通じ「特別重大報道」という臨時ニュースの中で、日本時間の10時30分、はじめて水爆の実験を行い、「完全に成功した」と伝えた。

そのうえで、「アメリカは敵対勢力とともに、わが国に経済制裁を行っている」「水爆を保有することは主権国家の合法的で自衛的な権利であり誰も侵害できない」と核実験を正当化するとともに「核抑止力を質的、量的に絶えず強化していく」と主張した。

水爆実験は「アメリカへの対抗措置」を大義にし「国の主権と生存権を守るため」などとして、正当性があるかのように主張しようとも、全人類の生存権を脅かす蛮行は絶対に許されるものではない。

北朝鮮は5月の党大会の前に戦略兵器の戦力向上を誇示し、内外に国威を発揚することを狙っているが、しかし今日、世界では軍縮や脱原発が叫ばれ、すべての国が核兵器の早期廃絶にむけて行動しなければならないときである。

「放射能の脅威」は、福島第一原発事故から5年が経とうとしている現在も一向に収束のメドも立たず、多くの県民が避難生活を余儀なくされ、子供たちには甲状腺がんも発生している現実で明らかである。人間と核は共存できないのである。

私たちJR総連は、北朝鮮の核実験に対し、満腔の怒りをもって抗議するとともに、すべての国の核兵器廃絶を強く求めていくものである。そして核兵器廃絶、脱原発、あらゆる戦争政策に反対して、たたかっていく決意である。

2016年1月6日

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連）